

日本地球電気磁気学会会報 (第7号)

1963年5月25日

日本地球電気磁気学会

事務所：東京都文京区弥生町 3

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 (812)2111 内線6476

振替 東京 4860 番

第33回講演会および総会経過報告：

先に皆様にプログラムをお配りしました通りの日程にて盛会裏に終了いたしました。講演予稿集の残部が少々ございますから、御希望の方には先着順にて1部200円でお譲りいたしますから御申出下さい。

総会における議事：

1. 役員改選の結果は、既に会報第6号を通じて皆様にお知らせしてあります通りです。今回の学会会期中に、評議員会、運営委員会ともに旧新両役員の間合議を開いて、会務の引継ぎを完了しましたとの報告がありました。新役員を改めて記しますと、(敬称略)

委員長：前田 憲一 (京大工)

評議員：上田 弘之、加藤 愛雄、金 原 淳、
関戸 弥太郎、田村 雄一、永 田 武、
島山 久尚、宮崎 友喜雄、吉松 隆三郎、
力 武 常次、(以上10名)

運営委員：秋本 俊一、大林 辰蔵、小 口 高、
上 山 弘、北村 正亟、木村 繁根、
近藤 一郎、新野 賢爾、中田 美明、
平尾 邦雄、福 島 直、前田 坦、
柳 泉 一夫、

(以上13名であります。上山、近藤、前田各会員は、今期の大部分の期間を外国で過ごす予定ですので、実質10名で運営することになります。)

(2)

なお、運営委員の事務分掌は次の通りに致すことになりました旨総会で報告がありました。

庶務：前田、福島、平尾、

会計：福島、木村、

会誌：大林、小口、平尾、中田、北村、柳原、新野、

学会連合・渉外：秋本、

2. 昭和37年度決算報告及び昭和38年度予算案審議は、後に示しますような数字が示され、承認されました。なお会員数に比して、会費収入が少い点が問題になり、現会員名簿には多数の長期会費滞納会員がそのまま掲載されているのを適当に整理することに総会出席者一同の大多数が賛意を表されました。具体的な案は運営委員会で考えることになりました。
3. 前回の総会（昭和37年10月16日、於柿岡）以降、昭和38年5月14日までに次の方々の入会申込が受け付けられました。

新入会員氏名（敬称略）所属

北沢 一宏（学習院大）

上手 敏彦（通 研）

鈴木 亮（京大理）

井上 益雄（京大理）

田中 義人（名大空電研）

小川 利彦（東大理）

新入会員氏名

M. D. Fuller (U.S.A.)

A. F. Frederickson (U.S.A.)

Allan V. Cox. (U.S.A.)

Joseph I. Lipson (U.S.A.)

A. C. Meyers III (U.S.A.)

W. G. Kertz (Germany)

R. W. Wright (Jamaica)

追記：5月15日以降に入会申込書を数名の方々からいただいておりますが、会規により次回運営委員会での承認が済みしてから、会報にて紹介させていただきます。

4. 挨拶

永田武委員長は、ここ半年来の内外学界情勢を紹介され、わが国における戦後の学問活動の根本単位としての学会の使命を強調されました。ついで前田憲一次期委員長、長谷川万吉名誉委員長の挨拶がありました。この御三人の挨拶はいずれも会員一同にとりましてまことに感銘深いものであります。

5. 次回総会及び講演会開催は、昭和38年秋に名古屋地区で行われる予定と一応さまりました。

事務局からのお知らせとお願い

次回会報には、最近における会員の勤務先変更をまとめて皆様にお知らせ致したいと思っております。春季総会までに多数の会員の方々から御通知をいただき、その都度事務局では宛先を訂正しております。その原簿によって学会からの通知やJ.G.G.誌をお送りしております。会員の方々で最近勤務先が変わられたり、また宛先を変えて欲しい場合には、簡単に学会事務局に御一報下さるようお願い致します。多数の会員が同一機関に居られる場合には、郵送費節約のために連絡員の方を一括してお送りしておりますが、連絡員になっていただいております方々からも当方の名簿に誤りがあれば指摘していただきたく存じます。

この会報は会員各位の連絡の場所として広く皆様に使っていただきたいと思っております。会報に載せる記事を積極的にお寄せ下さるようお願い致します。締切期日は別に設けませんが、次号の会報を出すときまでに着いていた分をまとめて掲載します。いままでの経験によりまして、会報は平均2月に1度の割合になっていますから、特に何月何日までに会報に掲載して欲しいという特別な御要求がある場合には、都合により御要求に応じられない場合があるかも知れませんことは予め御諒承下さい。

当事務局では、入会御案内(学会活動説明書・学会規約付)、入会申込書、別刷交換会案内などのパンフレットを用意致しましたので、これらのパンフレットを御希望の方は学会事務局に御申出下さい。そのうちに賛助会員勧誘の案内もつくる予定です。会員の皆様は、多数の新会員を勧誘して下さいようお願い致します。学会財政を援助するため、どうか賛助会員も多く勧誘して下さいようお願い致します。

会計報告 は次頁に数字を示してあります。

昭和37年度においては、当初予算に比べてみますと、賛助会員会費が極めて少く、その代りに海外にJ.G.G.誌を売り込むことに非常に努力致しまして、やっと財政の危機を一応は救うことができました(準会員会費として書き出されています)。また通信費、事務費、入件費なども学会支出節約のために援助を仰ぎました。ために少額もしくは0になっておりますことを御参考までに申し添えます。

(4)

會計報告

昭和37年度決算報告

収 入	円
前年度繰越金	217,677
正会員会費	140,741
準会員会費	449,583
賛助会員会費	6,000
文部省助成金	80,000
預金利子	4,096
予稿集売上	37,900
別刷代金	380,026
別刷交換会費	12,000
その他	1,500
計	1,329,523

支 出	円
第31回総会費	41,600
第32回総会費	26,660
会誌JGG XIII 1/2	157,870
“ XIII 3/4	236,945
“ XIV 1	159,740
“ XIV 2	159,264
雑印刷費	17,420
通信費振替・印紙	27,500
消耗品費	2,900
地球物理学会連合費	1,000
田中館次生10周年花代	1,000
次年度繰越金	497,624
計	1,329,523

昭和38年度予算案

収 入	円
繰越金	497,624
正会員会費	120,000
準会員会費	300,000
賛助会員会費	100,000
文部省助成金	140,000
預金利子	5,000
予稿集売上	40,000
別刷代金	240,000
別刷交換会費	5,000
計	1,447,624

支 出	円
春季総会	50,000
秋季総会	40,000
会誌JGG XIV 3	160,000
“ XIV 4	160,000
“ XV 1	90,000
“ XV 2	180,000
“ XV 3	180,000
“ XV 4	180,000
雑印刷費	20,000
通信・消耗品費	150,000
学会連合費	2,000
人件費	60,000
繰越金	175,624
計	1,447,624